



あいち
トリエンナーレ
2010

開催まであと80日!

平成22年6月2日(水)
愛知県県民生活部文化芸術課
国際芸術祭推進室
担当：権田・芦沢・拝戸・藤井
電話：052-971-6113 内線 724-691・701

「あいちトリエンナーレ2010」 参加アーティスト追加決定!

現代美術作品の展示や舞台芸術の公演によって、世界の最先端の現代アートの動向を紹介する「あいちトリエンナーレ2010」。8月21日(土)の開幕に向け、17組のアーティストの追加が決定しました。

1 現代美術の国際展

次の10名のアーティストの出品が決定しました。70組程度と予定していましたアーティストは、今回決定した作家を含め、現在71組が決定済みです。

(詳細は別紙1のとおり)

アーティスト名	在住都市	アーティスト名	在住都市
秋吉 風人	大阪府	アマル・カンワル	ニューデリー
メルヴェ・ベルクマン	イスタンブール	ラクウエル・オーメラ	シドニー
オー・インファン	ソウル	サンティアゴ・シエラ	ルッカ、マドリッド
泉 孝昭	愛知県	塩田 千春	ベルリン
ジンミ・ユーン	バンクーバー	登山 博文	愛知県

2 愛知県美術館8階ギャラリーGにおけるパフォーミング・アーツ

次の1名のアーティストの出品が決定しました。今回決定したアーティストを含め、現在7団体等が決定済みです。(詳細は別紙2のとおり)

愛知県美術館ギャラリーGでは、トリエンナーレの特色である「複合性」を具体化するため、造形的な表現と身体的な表現の境界領域に位置する先端的・実験的表現を上演します。

アーティスト名	在住都市
山川 冬樹	神奈川県

3 映像プログラム

次の5名のアーティストの出品が決定しました。今回決定したアーティストを含め、現在8名が決定済みです。(詳細は別紙3のとおり)

「映像の第二世紀に向けて」をテーマに、愛知芸術文化センター小ホールにおいて、世界各国の先端的な長短編映像を上映します。

アーティスト名	在住都市	アーティスト名	在住都市
ストローブ=ユイレ	パリ、トスカーナ	アピチャップン・ウィーラセタクン	チェンマイ、バンコク
牧野 貴	東京都	ベン・ラッセル	シカゴ
アレクサンドル・ソクーロフ	サンクトペテルブルク		

4 屋外パフォーマンス

次の1名のアーティストの参加が決定しました。今回決定したアーティストを含め、現在3団体等が決定済みです。(詳細は別紙4のとおり)

劇場を飛び出し、長者町会場などの都市空間、また、愛知芸術文化センター内のフォーラムなどでパフォーマンスを行います。

アーティスト名	在住都市
野村誠	京都府

なお、7月上旬には全ての参加アーティストを確定し、その後に名古屋、東京、大阪において企画内容全体をお知らせする記者会見(企画発表会)を開催する予定です。

【現代美術の国際展】（今回発表アーティスト）



秋吉 風人 (Futo Akiyoshi)

1977年大阪府生まれ。大阪府在住。自身の制作行為やアトリエという現場から立ち上がるリアリティに足場を置きながら、「絵画」という概念の解体と再構築の試みを多様なメディアで提示している。あいちでは、金色の油絵具のみを用いて空間を描く平面作品《Room》シリーズを中心に会場を構成する予定。

《Room》 2009

© Futo Akiyoshi 2009 Courtesy of TARO NASU

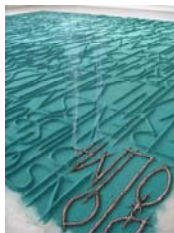


メルヴェ・ベルクマン (Merve Berkman)

1977年イスタンブール（トルコ）生まれ、イスタンブール在住。彼女の作品は、都市の日常世界における様々な光景や、その中に生きる人々のポートレートが主体となっている。作家は、身近な日常生活に密着した映像言語を使う事により、静寂で平穏な一時を再現しようとする。今回は、この一見して心理的、また時として社会的状況を扱ったように見える映像をまちなかのビルボードとして展示し、通常世界における存在を通して起こるある種の魔法のような思いを喚起させる。

《Elvan》 Istanbul 2005

Courtesy of the artist



オー・インファン (Oh Inhwan)

ソウル（韓国）生まれ、ソウル在住。写真、インスタレーション、プロジェクトなど様々な方法を用いるが、一貫して、ものが認識される過程や認識の規範を浮かび上がらせることに関心を持ち続けている。あいちのための新作インスタレーションを発表予定。

《Where a Man Meets Man in

Santiago》(detail) 2007 Courtesy of the artist



泉 孝昭 (Takaaki Izumi)

1975年福岡県生まれ。愛知県在住。自身の環境や経験から主題や素材を選びとり、最小限の手を加え作品として提示する泉は、日常と美術の境界で表現することそのものについての問いかけを行っている。あいちでは、彩色した材木を輸送用パレットのように積み重ねたインスタレーションで会場を構成する予定。

《Pallet》 2009

© Takaaki Izumi 2009 Courtesy of TARO NASU 撮影:山本糾



ジンミ・ユーン (Jin-me Yoon)

1960年ソウル（韓国）生まれ。バンクーバー（カナダ）在住。写真や映像作品を通じて現代を生きる人間のアイデンティティを問い続ける作家。近年は自ら都市を這い回る行為によって、さらに身体的なレベルでの活動を展開しており、あいちでも同様の新作を撮影・発表する予定。

あいちトリエンナーレ 2010:名古屋プロジェクト

アマル・カンワル (Amar Kanwar)

1964年ニューデリー（インド）生まれ。ニューデリー在住。インドをはじめ、政治的対立に苦悩する歴史をもつアジアにしばしば焦点を当てる。詩情溢れる映像を通して、権力に翻弄される正義や性、暴力などが、人々の日々の生活や文化に落とした影を静かに浮かび上がらせる。



《Varied Tit Feeders》2010

ラクウェル・オーメラ (Raquel Ormella)

1969年シドニー（オーストラリア）生まれ。シドニー在住。現代社会に生きるわれわれをとりまく様々な問題を、素朴でいながらも鋭い視点で切り取るラクウェル・オーメラ。今回は、日本の都市における人間と自然（野鳥）との関係をテーマに、3つのビデオ作品を制作予定。



《NO》2009

Courtesy of Prometeogallery
di Ida Pisani

サンティアゴ・シエラ (Santiago Sierra)

1966年マドリッド（スペイン）生まれ。ルッカ、マドリッド在住。作家は、作品を制作する際に一般の人々を募り、その人々に課した労働に対する報酬という経済原則の一つをかたどったパフォーマンスや、それを記録した白黒写真を通じて、社会の隠された権力構造を露にする。今回は「No Global Tour」シリーズの一環として、《NO》という巨大なアルファベットの看板をトラックの荷台に搭載しまちなかに駐車するという作品を出品する。



《流れる水》2009

入善町下山芸術の森発電所美術館

塩田 千春 (Chiharu Shiota)

1972年大阪府生まれ。ベルリン（ドイツ）在住。私的な記憶や感覚をもとに、自身の存在と不在あるいはアイデンティティへの不安を様々な媒体で表現してきた塩田千春。今回は、あいちトリエンナーレのために制作する、詩的で美しく、印象的なインスタレーション作品の最新作を発表予定。



《ドローイング | タブロー I》2008 撮影: 怡土鉄夫

登山 博文 (Hirofumi Toyama)

1967年福岡県生まれ。愛知県在住。登山は見たことのないものを描くことを理想とする。現れるイメージに呼応してドローイングを行いながら、意図を排し、イメージが意味へと収束する手前に留まることで、描くこと／生成そのものが現れるタブローの制作を試みている。今回は大画面の新作3点を発表する。

●発表済みアーティスト（61組）

アーティスト名	在住都市	アーティスト名	在住都市
アデル・アブデスメッド	パリ	青田 真也	愛知県
ファン・アラウホ	カラカス	浅井 裕介	東京都
ズリカ・ブアブデラ	パリ	マーク・ボスヴィック	ニューヨーク
蔡 國強	ニューヨーク	市川 武史	愛知県
ミケランジェロ・コンサーニ	リヴォルノ	石田 達郎	愛知県
ケリス・ウィン・エヴァンス	ロンドン	ジュー・チュンリン	シンガポール
トム・フリードマン	レヴァレット	川見 俊	愛知県
シブリアン・ガイヤール	ベルリン	木村 崇人	山梨県
ジェラティン	ウィーン	KOSUGE1-16	東京都
オリバー・ヘリング	ブルックリン	村田 峰紀	埼玉県
ホアン・スー・チェ	ニューヨーク	小栗沙弥子	岐阜県
池田 亮司	パリ	ジム・オヴェルメン	ロサンゼルス
ヤコブ・キルケゴール	ベルリン	ピップ&ポップ	パース
ルシア・コッホ	サンパウロ	ナタリヤ・リボヴィッチ&藤田央	東京都
小金沢 健人	ベルリン	斉と 公平太	愛知県
小泉 明郎	神奈川県	志村 信裕	神奈川県
草間 彌生	東京都	アーヒム・シュティーアマン+ ローランド・ラウシュマイアー	アウグスブルク+ウィーン/ ウィーン
フィロズ・マハムド	東京都	トーチカ	奈良県
松井紫朗	京都府	梅田 哲也	大阪府
三沢 厚彦 + 豊嶋 秀樹	神奈川県/東京都	山本 高之	愛知県
宮永 愛子	京都府	山下 麻衣 + 小林 直人	ベルリン
西野 達	ベルリン		
ハンス・オブ・デ・ビーク	ブリュッセル		
アマリア・ピカ	ロンドン		
ナウイン・ラワンチャイクン	チェンマイ+福岡		
ジラユ・ルアンジャラス	カラシン		
ダヴィデ・リヴァルタ	ボローニャ		
志賀 理江子	宮城県		
島袋 道浩	ベルリン		
カーメン・ストヤノフ	ウィーン		
高嶺 格	滋賀県		
タチアナ・トゥルーヴェ	パリ		
ツァン・キンワ	香港		
梅田 宏明	東京都		
ヘマ・ウパディヤイ	ムンバイ		
渡辺 英司	愛知県		
スン・ユアン+ポン・ユウ	北京		
エクトール・サモラ	サンパウロ		
ヤン・フードン	上海		
ジャン・ホアン	上海+ニューヨーク		

【愛知県美術館におけるパフォーミング・アーツ】（今回発表アーティスト）



撮影：高木由利子

山川冬樹 (Fuyuki Yamakawa)

1973年ロンドン（イギリス）生まれ。神奈川県在住。ロシア連邦トッバ共和国の民族音楽における独特の歌唱方法、ホーメイを巧みに操り、芸術の境界線をまたにかけた脱領域的活動を展開。骨伝導マイクといった医療機器などのテクノロジーを介し、身体を空間化させる。あいちでは、氣息をテーマに新作を予定。

●発表済みアーティスト（6団体等）

アーティスト名	在住都市
アントニア・ベアー	ベルリン
ボリス・シャルマツ	レンヌ
スティーブン・コーヘン	リール
ティム・エッチェルス/ フォースド・エンターテイメント	シェフィールド
ソニア・クーラナ	ニューデリー
ラ・リボット	ジュネーブ

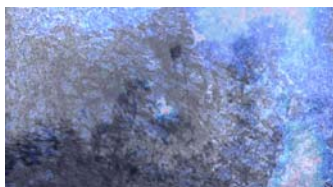
【映像プログラム】（今回発表アーティスト）



『あの彼らの出会い』2006

ストローブ=ユイレ (Straub/Huillet)

映画作家。ジャン=マリー・ストローブは、1933年フランス・メス生まれ。ダニエル・ユイレは、1936年パリ生まれ。二人は、私生活においてもパートナーであるが、映画製作においてひとつの「芸術的人格」として活動しているため、ストローブ=ユイレと表記されている。ストローブは、メスのシネクラブで番組編成に携わり、短期間パリで学んでいた54年にユイレと出会う。58年、ストローブは徴兵忌避のため西ドイツに亡命、ユイレとともにミュンヘンに居を構える。67年、最初の長編『アンナ・マグダレーナ・バッハの日記』で国際的に知られるようになる。69年、ローマに生活・活動拠点を移す。先行する文学作品に基づき、それを厳密に映画化する独自の制作姿勢により、孤高の映画作家と称される。2006年に惜しくもユイレは没したが、ストローブは現在もパリとトスカーナ（イタリア）を拠点に活動を継続している。



『Inter View』2010

牧野貴 (Takashi Makino)

映像作家。1978年東京生まれ。2001年、日本大学芸術学部映画学科撮影コース卒。同大在学中より多数の8ミリ映画を制作。2001年、単身ロンドンに渡り、ブラザーズ・クエイのアトリエで音楽と照明について学ぶ。帰国後もフィルムによる映画製作を続け、2004年以降、ライブスペースやギャラリーで個展上映を続けている。2009年、『still in cosmos』が、世界最大の実験映画祭「25FPS 国際実験映画祭」でグランプリを獲得。同年、初の中篇作品『The World』が劇場公開される。国内外の映画祭の他、美術展への出品も多数。フィルムとビデオ、二つの方法、技術を最大限に活用し、映像と音楽を同価値に捉えながら、映画を制作、発表している。



『精神の声』1995

© North Foundation

アレクサンドル・ソクーロフ (Alexander N. Sokurov)

映画監督。1951年、シベリアのイルクーツク生まれ。サンクトペテルブルク（ロシア）在住。1974年、ゴーリキー大学で歴史学の学位取得後、モスクワの全ソ国立映画大学の監督コースに学ぶ。卒業制作として、最初の長編作品『孤独な声』（1978年）を完成。アンドレイ・タルコフスキーの擁護にもかかわらず、公開禁止となる。彼の作品が広く知られるようになったのはソ連崩壊後で、1987年以降、国際映画祭などの場において、『孤独な声』や、ドキュメンタリー作品『マリア』（1975年）などが、西欧社会で高い評価を獲得する。以後もドキュメンタリーと劇映画の双方をコンスタントに手掛け、その枠組みを越えて映像表現の新しい地平を切り拓き続けている。



『ブリスフリー・ユアーズ』2002

アピチャポン・ウィーラセタクン(Apichatpong Weerasethakul)
 映画監督。1970年バンコク(タイ)生まれ。チェンマイ、バンコク(タイ)在住。ドキュメンタリーとフィクションの境界を意図的に揺るがせる独自の的方法論により、映画や映像作品、写真などを手がける。映画監督として、「カンヌ映画祭」では、今年、タイでは初となる「パルムドール」(最高賞)の他、これまでも2度の受賞を誇る。日本では「山形国際ドキュメンタリー映画祭」や「東京フィルメックス」などの映画祭で受賞。美術の分野でも、多くの国際展に出展し、2008年に米国・カーネギー・インターナショナルに新設された「Fine Prize」賞の第一号に輝くほか、2010年に韓国の「アジア・アート・アワード」を受賞。現在、グッゲンハイム美術館がとりまとめる「ヒューゴ・ボス賞」の最終選考にノミネートされている。



『Let Each One Go Where He May』
 2009

ベン・ラッセル(Ben Russell)
 映像作家 1976年、アメリカ生まれ。シカゴ(アメリカ)を拠点とする映像作家。フィルム作品を中心に、写真やインスタレーション作品も制作する。彼の映像作品は、過去の映画作品を用い、編集・加工の操作を加えて、オリジナルの作品とまったく別の文脈や意味を構築する、ファンド・フッテージと呼ばれる手法によるものから、ドキュメンタリーの的方法論に基づいた文化人類学的なアプローチのものまで、多様である。初めての長編『Let Each One Go Where He May』(2009年、彼ら一人一人、辿り着くであろう場所に行かせなさい)は、後者の方法論による作品で、2009年の「トロント国際映画祭」でプレミア上映された後、「ロッテルダム国際映画祭」「アナーバー映画祭」等、多くの映画祭で上映され、話題となっている。

●発表済みアーティスト(3作家)

アーティスト名	在住都市
ジョナス・メカス	ニューヨーク
石田 尚志	東京都
辻 直之	神奈川県

【屋外パフォーマンス】（今回発表アーティスト）

**野村誠 (Makoto Nomura)**

ピアノなどの楽器で演奏する作曲作品に加えて、老人ホームでの共同作曲、鍵盤ハーモニカで動物園の動物とセッション、銭湯でお湯や桶を使った音楽会を行うなど、現代音楽の可能性を開拓する作曲家。あいちでもこれまでにない音楽を発表する。

●発表済みアーティスト（2団体）

アーティスト名	在住都市
コンタクト・ゴンゾ	大阪府
まことクラヴ	東京都